

第4学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「漢字の広場④」 教材名「漢字の広場④」

2 単元の目標

学習した漢字を読み、文や文章の中で意味に合うように書いて使うことができる。相手に伝えたい内容を読み返し、漢字の用法や文の表し方を確かめて文章を整えることができる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①学習した漢字を読み、文や文章の中で意味に合うように書いて使っている。（〔知識及び技能〕(1)エ）	①「書くこと」において、相手に伝えたい内容を読み返し、漢字の用法や文の表し方を確かめて文章を整えている。（B(1)エ）	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

既習漢字の読み・意味を確かめ、活動の報告の文章の中で使う。教科書の図や課題は転載せず、本案独自の短い作文で用法を確かめる。学習指導要領のB(1)エを中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(1)エを、言語活動の中で確かめる。年間指導計画の重点項目は知識・技能である。本案では、身に付けた知識を文や話の中で使う言語活動に対応する思考・判断・表現の事項も関連付けている。

（2）児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

（3）指導について

したこととその結果を分けて書き、漢字の意味が前後の内容に合うかを確かめる。使う漢字は当該学年の既習範囲から選ぶ。まだ習っていない字を書くことを評価の条件にせず、辞書や教科書で確かめてよい。四年生では字形が似る部分に印を付け、漢字の意味と送り仮名を声に出して確認する。おおむね満足できる状況は、相手に伝えたい内容を読み返し、漢字の用法や文の表し方を確かめて文章を整えているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画（全2時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○既習漢字の読みと意味を短い文で確かめる。学級で行った活動を、参加していない相手へ報告する短い文章を書く。。	学習状況を見て支援する。
第2次	2 (本 時)	○相手に読んでもらい意味の合わない箇所を確かめる。辞書や教科書を使って漢字と文の表現を直す。	思①（発言・学習記録）



6 本時の指導 (2/2)

(1) 本時の目標

相手に伝えたい内容を読み返し、漢字の用法や文の表し方を確かめて文章を整えることができる。

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「活動の報告で伝えたい内容に、その漢字の意味は合っていますか」 【めあて】既習漢字の読み・意味を確認、活動の報告の文章の中で使う。 〈予想される児童の反応〉 ・読みが同じでも意味に合う字を選びたい。	本時に考える対象を確認し、既に分かったことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 (分)	○「活動の報告で伝えたい内容に、その漢字の意味は合っていますか」 相手に読んでもらい意味の合わない箇所を確かめる。辞書や教科書を使って漢字と文の表現を直す。 活動の報告の自作文と、使った漢字の意味、直す前後を並べた記録。 自分が選んだ言葉とその理由を相手に説明する。聞き手は、意図した意味が伝わった箇所と確かめたい箇所を返す。 〈予想される児童の反応〉 ・読みが同じでも意味に合う字を選びたい。 ・前後の文と合わせると別の漢字が合う。 ・習った字を自分の文章で使うことができた。	したこととその結果を分けて書き、漢字の意味が前後の内容に合うかを確認する。使う漢字は当該学年の既習範囲から選ぶ。まだ習っていない字を書くことを評価の条件にせず、辞書や教科書で確かめてよい。四年生では字形が似る部分に印を付け、漢字の意味と送り仮名を声に出して確認する。 想定するつまずき：難しい漢字を使うことが目的になり、実際にした内容と違う文になる。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 相手に伝えたい内容を読み返し、漢字の用法や文の表し方を確かめて文章を整えている。(発言と学習記録)
まとめ (分)	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって分かったことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・習った字を自分の文章で使うことができた。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った具体的な言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って自分の表し方を確かめる。 ◎態① (学習前後の記録と、見直した理由)

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「活動の報告で伝えたい内容に、その漢字の意味は合っていますか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた具体的な言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

